

# 図書館だより

NO. 114 2007年 8月号  
(2007年8月1日発行)

はつかいち市民図書館  
電話(0829)20-0333  
廿日市市下平良 1-11-1

ホームページ <http://www.hiroshima-hatsukaichi-lib.jp/>

## 本が泣いています・・・

はつかいち市民図書館返却カウンター横で、8月1日(水)～9月2日(日)の間、書き込み、水濡れ、切り抜きなどで傷ついた本の展示を行います。開館10周年を迎えた、はつかいち市民図書館の蔵書数は、もうすぐ20万冊に達する予定です。その反面、一部の利用者によって、本が傷められ、貸出しできなくなるケースが後を絶ちません。

はつかいち市民図書館では、多くの人に親しまれ、みんなの本棚として、もっともっと役にたっていけるように、痛んだ本を修理しています。しかし、修理できないほど傷んだ本は、廃棄処分の対象になってしまいます。今回展示されているのは、廃棄処分を待つ本たちです。

本は、利用者一人ひとりのちょっとした、「やさしい気持ち」で、その寿命を何倍にも延ばすことができます。もっと多くの利用者に感動を与えることもできるのです。

夏休み期間中の展示ということで、たくさんのお子様たちも来館し、目にするところでしよう。大人が図書館利用のマナーを示す、よい機会になればと考えています。

## 今月の展示

＜さくらびあ展示＞・・・一般書

・『さくらびあ物語』—大石芳野に関する本と戦争写真集—

はつかいち美術ギャラリーで開催される「ヒロシマ平和への思い～大石芳野写真展」にちなんで、大石芳野さんの著書や写真集を展示しています。また、戦争の傷跡を映し出した他の写真家の写真集も併せて展示しています。

＜中央展示＞・・・児童書

・『このほんおもしろいよ』—夏休みに読んでみたい本—

小学生・中学生向けに、夏休みにおすすめの本を展示しています。小学校低学年・中学年・高学年・中学生に分けておすすめ本のリストも用意しています。

＜児童展示＞・・・児童書

・『戦争と平和の本』

戦争を知らない世代に伝えたいことは「戦争の現実」と「命の尊さ」。子どもたちの未来のためにも「平和」について大切な人と一緒に考えてみましょう。

# 私・図書館員のすすめる本

## 一般書

『フェラーリと鉄瓶』

奥山清行／著

537.1/オ 2007年 PHP研究所

筆者は、大学卒業後、アメリカ・ドイツ・イタリアで自動車関連のデザイン担当者として、数々の高級スポーツカーを生み出し、日本人の名を世界に知らしめた人物です。彼曰く、「それぞれの国の文化、国民性の違いによって、ものづくりに対する気構えや意識などが異なり、孤軍奮闘しながらデザインすることで、さらにおもしろいデザインを生み出せた。」と語っています。

裏話を交え、特異な経験を元に語った文章は、たいへん興味深く、感動する内容ですので、是非読んでみてください。

紹介者：松尾耀介

## 児童書

『発達と障害を考える本1～8』

内山登紀夫／監修

378/ハ 2006年 ミネルヴァ書房

「発達と障害を考える本」では、目に見えにくくわかりにくい障害について、親子で、あるいは先生と生徒でいっしょに考えながら読めるよう、マンガを使ってわかりやすく紹介されています。

シリーズ第1巻では、「自閉症」について紹介されており、障害を持つお友だちが、どうしてその行動をとるのか、その時のお友だちの気持ちや、担任の先生が行った工夫について、ていねいに説明しています。学校生活について、家族で話をするきっかけになる本です。

紹介者：図書館職員

## 今月の新着 大人の本

図書館には1カ月に約700冊の新刊が入ります。その一部を紹介します。

☆☆ 図書館のホームページで新着図書の一覧を見ることができます ☆☆

- 『ウェブは資本主義を超える』池田信夫／著 日経BP社 007.3/イ
- 『読む人間』大江健三郎／著 集英社 019/オ
- 『家族葬』牛込覚心／著 国書刊行会 186/ウ
- 『大村しげ 京都町家ぐらし』横川公子／編 河出書房新社 289.1/オ
- 『西郷隆盛伝説』佐高信／著 角川学芸出版 289.1/サ
- 『反転 闇社会の守護神と呼ばれて』田中森一／著 幻冬舎 289.1/タ
- 『国際協力師になるために』山本敏晴／著 白水社 333.8/ヤ
- 『妻と夫の定年塾』西田小夜子／著 中日新聞社 367.3/ニ
- 『レジ袋がなくなる日』環境問題を考える会／著 マイクロマガジン社 451.3/レ
- 『「いのち」の話がしたい』内藤いづみ／著 佼成出版社 490.1/ナ
- 『私たちは本当に自然が好きか』塚本正司／著 鹿島出版会 519.8/ツ
- 『ブレークスルーの科学』五島綾子／著 日経BP社 578.0/コ
- 『田舎暮らしができる人できない人』玉村豊男／著 集英社 611.9/タ
- 『アクアフィットネス』ミミ・ロドリゲス・アダミ／著 産調出版 785.2/ア
- 『ツールド・フランス完全ガイド』土肥志穂／著 楓書店 788.6/ト
- 『エドガー・アラン・ポー怪奇傑作選』  
エドガー・アラン・ポー／著 IBCパブリッシング 837.7/ホ
- 『生きることは愛すること』瀬戸内寂聴／著 講談社 914.6/セ
- 『にこにこ貧乏』山本一力／著 文芸春秋 914.6/ヤ
- 『刀語 第7話』西尾維新／著 講談社 F/ニ
- 『夜明けの街で』東野圭吾／著 角川書店 F/ヒ

# あたらしく入った本 こどものほん

## 『ウェン王子とトラ』

チェン・ジャンホン作・絵 平岡敦訳 徳間書店 E / 子

獵師に子どもを殺された母トラは、憎しみから村を襲う。トラの怒りをしずめるために幼いウェン王子がいけにえになって……。迫力ある構図の絵が心を揺さぶる中国のお話。

## 『さがそう！ちがう虫』

一海野和男のさがしてムシハカセ①一』

海野和男著 偕成社 486/ウ

昆虫ではない生きものはなんびき？ずらりと並んだたくさんの中から、仲間と違う虫をさがしてみよう。間違い探しをしながら、いろいろな虫の生態について学べます。シリーズあり。

## 『ポータブル・ゴースト』

マーガレット・マーヒー作 幾島幸子訳 岩波書店 933/マ

ディッタは正体不明の男の子(実は幽霊)を図書館で見かける。そんなある日、彼女はクラスのマックスが元気がないのに気が付き……。幽霊をめぐるなぞ解きの物語で、マーヒーの最新作。

『緑の模様画』 高樓方子 福音館書店 913/タ

『がんばれヘンリーくん』『ヘンリーくんとアバラー』

ベバリイ・クリアリー作 松岡享子訳 ルイス・ダーリング絵 学研 933/ク

改訂版が刊行されました。「ヘンリーくんシリーズ」は続々、刊行予定です。

『ニルスのふしぎな旅(上)・(下)』セルマ・ラーゲルレーヴ作 菱木晃子訳

ベッティール・リーベック画 福音館書店 949/ラ

『一科学絵本ライブラリーファープル昆虫記 かまきり』

文一小林清之介 絵一森上義孝 監修一須田孫七 ひさかたチャイルド E/フ

ヤング『はじめての文学 重松 清』重松清著 文藝春秋 918/ハ

『闇の守り人』上橋菜穂子著 BFウ『卵の緒』瀬尾まいこ著 BFセ 共に新潮文庫

## 『ぼくのコブタは、いいこでわるいこ』

マーガレット・ワイズ・ブラウン え ダン・ヤッカーノ やく はいじまかり BL出版 E/ヤ

きれいでいいこのコブタがほしいピーター。ママが頼んでくれ、農場から送られてきたコブタは、どろだらけでした。「まあなんてきたないコブタでしょう。」カラフルな色使いの楽しい絵本。

## 『どうぶつ句会ーオノマトペー』

あべ弘士 学研 913/ア

久しぶりに俳句会「ゆきだるま」が開かれました。ふくろうの雪野袋代表から出されたお題に、集まった動物たちは頭をひねります。愉快的俳句絵本。

## 『歩く』

ルイス・サッカー 金原瑞人+西田登一訳

講談社 933/サ

アームピットはグリーンレイク仲間のX・レイにうまい話があると誘われ、金儲けの話に乗る。しかし、彼は根がまじめなだけに心配でたまらない。『穴』で登場した二人がくりひろげるスリリングな物語。

『穴』の続編。

今年はアストリッド・リンドグレーン生誕100年です

『長くつ下のピッピ』で有名なリンドグレーンは、37歳の時『ブリットーマリはただいま幸せ』でデビューしました。いたずらっ子の代表「エーミル」や「ロッタちゃん」などの幼年童話から「名探偵カッシュくん」や「さすらいの孤児ラスムスくん」シリーズなど、たくさんの作品を生み出し、世界中の子どもたちに愛されています。なかでも、冬の長い北国の子どもたちが、夏の間思いっきり跳ね回って遊んでいる姿が印象的な「やかまし村」シリーズは、自伝的要素が強く農村の子どもたちの素朴な暮らしが描かれています。本格評伝『ピッピの生みの親アストリッド・リンドグレーン』やインタビュー集『遊んで遊んで遊びました』も併せて読むと、魅力的な彼女の姿に触れることができます。

# 藤田浩子さん講演会報告

7月26日（木）あいプラザ多目的ホールにおいて、図書館開館10周年記念行事「子どもと本の講座・おはなしおばさん講演会」を開催しました。約150名の参加があり、藤田さんと楽しい時間を過ごすことができました。

当日は、串戸保育園の園児さんに、藤田さんがおはなし会の実演をしている様子を参加者に見て頂きました。子どもたちが藤田さんのおはなしにあわせて表情をかえる様子や、身乗り出して聞く姿勢が参加者に伝わって、会場はとても和やかな雰囲気になりました。

その後の講演会では、子どもたちの周囲にいる大人がもっと子どもに声をかけてほしいと話されました。特に、赤ちゃんの寝ている部屋でさえもいつでもテレビがついている、最近の日本における子育ての現状を心配されていました。

赤ちゃんはすべての音を同じ分量で耳に入れるので、たくさんの音を聞いているうちに音を聞き流すようになり、いつもテレビなどの音のある部屋にいと、母親の声とテレビの音との区別ができなくなるそうです。感情のある声を識別できないと、そのうちに表情のまずい子に育ってしまいます。

そうならないためにも、感情のこもった言葉を子どもが聞きやすい早さとリズムで語りかけることが必要で、たくさんの詩やわらべうたを通して子どもとふれあう方法を紹介されました。

講演で紹介されたわらべうたや詩、昔話や小道具は藤田さんの著書で紹介されています。図書館で所蔵していますので是非ご覧ください。



## 8月の図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3 ◎	4
5	6 休館	7	8	9	10	11 ☆
12	13 休館	14	15	16	17 ◎	18
19	20 休館	21	22	23	24	25 ☆
26	27 休館	28	29	30	31	

◎…ちいさいこのためのおはなし会  
 【対象】乳幼児  
 【時間】1回目 11時～  
 2回目 11時30分～  
 ※整理券を相談窓口で配布します

☆…おはなし会  
 【対象】幼児から大人まで  
 【時間】11時～

いずれも【場所】は  
 図書館会議室です

